

平成 26 年度第 3 回尾張旭市健康推進委員会 議事録〔要旨〕

【開催日時】

平成 27 年 2 月 20 日（金）

開会 午後 1 時 30 分

閉会 午後 2 時 30 分

【開催場所】

尾張旭市保健福祉センター2 階 201・202 会議室

【出席委員：10 名】

日比野 清康（瀬戸旭医師会）【委員長】

柴田 浩二（尾張旭市歯科医師会）【副委員長】

加藤 富士子（尾張旭市薬剤師会）

斎藤 征夫（名古屋経済大学）

村瀬 利治（尾張旭市自治連合協議会）

吉田 与十六（尾張旭市体育協会）

額瀨 陽子（尾張旭市健康づくり食生活改善協議会）

三浦 雅子（愛知県健康づくりリーダー連絡協議会瀬戸支部）

青木 峯子（公募委員）

浅野 憲治（公募委員）

【欠席委員：4 名】

宮田 敬三（旭労災病院）

森田 敬一（公立陶生病院）

西山 妙子（尾張旭市地域婦人団体連絡協議会）

田口 良子（瀬戸保健所）

【傍聴者】

なし

【出席した事務局職員】

若杉健康福祉部長、吉田健康福祉部次長、竹内健康課長、清水健康課長補佐、長嶋健康課長補佐、磯村健康課副主幹

【議題】

平成 26 年度保健事業の概要報告について

第 2 次健康あさひ 21 計画の最終案について

【会議の概要】

- 1 開会
- 2 議題
- 3 その他
- 4 閉会

1 開会

<欠席委員の確認、会議の公開についての報告、会議資料についての確認等>

2 議題

平成 26 年度保健事業の概要報告について

<事務局より資料に基づき説明>

(委員長)

何かご意見等はないか。特にないようであれば次の議題に移る。

第 2 次健康あさひ 21 計画の最終案について

<事務局より資料に基づき説明>

(委員長)

計画の最終案ということであるが、何かご意見等はないか。

(A 委員)

29 ページ（小学生の中等度・高度肥満傾向児の割合）の目標値を上げたということだが、これに伴って取り組み箇所を変えたところはあるか。

(事務局)

取り組み箇所は特に変えていない。目標としていた「現状維持以上」というのが消極的ではないか、ということで目標値を上げたものである。

(B 委員)

41 ページに「生活習慣病のリスクを高める飲酒量（1 日平均純アルコール摂取量）」が書いてある。毎日、これだけの量を飲むとだめだということか。個人差もあると思う。

(事務局)

男女差や個人差もあるが、一般的に言われている数値を載せている。

(委員長)

男性 40 g、女性 20 g の根拠は何か、ということである。

(事務局)

女性は男性に比べて肝臓も小さく処理能力が少ないため、男性の半分となっている。

(委員長)

良く飲む場合には40gは超えるだろう。それを少し抑える人が増えればこの目標は達成される。飲んでいけないとはどこにも書いていない。未成年者以外は。

(C委員)

概要版の2ページ、施策の体系のところになるが、一番下に「コミュニティを中心とした健康づくり」とある。旭丘連合自治会でも1年に1回、「健康フェスタ」というものを開催している。ふれあい健康スポーツ部というものがあり、そこが行っているが、その内容について市から具体的な提案はないだろうか。

(事務局)

旭丘でのそのような取り組みについては、私どもも認識している。そういった活動を他の地区でも展開できないかどうか、考えていかなければならない。健康づくりは個人単位ではなく、みんなでやることで効果的になるので、コミュニティで行えば、安定した、広がりのある健康づくりにつながっていくと思う。具体的にと言われると難しいが、筋力トレーニングは地域に溶け込んできており、コミュニティを支えていただいているので、そのような展開を広げていければと思う。

(C委員)

いろいろ頭を悩ませている。講師の方に来ていただき、皆さんに集まっていただくことを目的にやっているが、1回きりになってしまう。何か続いていくようなことができたらいいと思っているが、1年に1回だけだと、どうしても難しい。ぜひ、ご指導いただきたい。

(事務局)

他の地区でも同じように地元主催で開催しているところもあるし、「健康まつり」という名称でやっているものもある。そこでは相談をいただいたり、こちらから提案をしたり、実際に保健師も休みの日にお手伝いをしたりしている。ご相談いただければ力になれるところもあると思う。

(事務局)

例えば出前講座もあるので利用していただきたい。

(C委員)

また相談に乗っていただきたい。

(委員長)

コミュニティと行政とのつながりがもっととれるようになれば、さらに発展していくものと思われる。他にいかがか。

(D委員)

前回もお話した朝食の欠食の件である。私の経験で言えば、17歳や中学生の欠食率の値はもっと高いと思うので、数字がおかしいのではと。今後もアンケートで評価していくということが記載してあるが、アンケートをする時に、「現在」や「1週間」など、期限を決めていないと不確かになるのではないだろうか。

(委員長)

アンケートの取り方についてのご意見であった。では、例えばどのように行えばよいとお考えか。

(D委員)

アンケートの前段で、10日間や1か月など、より具体的な期限を決めて質問した方がよい。

(事務局)

評価のためには、過去と同じ形で質問をしていないと比較ができないということがある。具体的な期間を定めているものには32ページの「運動習慣者の割合」があり、週2回以上、30分以上の運動を1年間継続している者、というように国がしっかりと定義づけている。国や県との整合により、どうしても感覚的にならざるを得ないものもある。朝食については、今回「毎日食べている」「時々食べている」「食べていない」の3項目で質問しており、今回の現状値1.1%に該当するのは「食べていない」である。「時々食べている」は12.6%となっている。

(委員長)

アンケートの取り方を変えるのでなければ、「1か月」などの言葉を入れても結果は大きく変わらないだろうと思うが、今後の参考にはできると思う。

(D委員)

目標値や現状値が実感として合わないところがあると思う。公の研究発表で使えるのかどうか。自信を持っては言えないのではないか。

(事務局)

結果は結果であるので、恣意的に変えるわけにはいかない。例えば総合計画のアンケートにも、「あなたは健康だと思いますか」という項目があるが、これもアバウトな聞き方である。病院に行っても健康だと答える人もいるだろうし、難しいところである。

(D委員)

例えば44ページのように、「年1回以上、歯の健診を受けているか」などは具体的でいい。

(事務局)

委員のおっしゃられるように、実態を調べるべきものはそうしていきたいが、急には変えられないこともあるので、また次回に活かしていきたい。

(委員長)

貴重なご意見をありがとうございました。では続いて「3 その他」に移りたい。

3 その他

<事務局より>

部長あいさつ

今後の予定（策定作業、計画の公表等）について

4 閉会